

令和6年度 第2回島田市地域密着型サービス運営委員会 会議要録

● 開催日時：令和6年12月23日（月）午後3時00分～午後3時45分

● 開催場所：島田市役所本庁舎 川根地域総合課2階 会議室
（島田市川根町家山4153番地の6）

● 出席者【委員】

・静岡福祉大学	渡邊 英勝（委員長）
・島田市自治会連合会	永井 潤（副委員長）
・介護老人保健施設 さくら	吉田 弥生
・あおぞらデイサービスセンター島田	仁藤 直子
・ケアマネットしまだ	勝又 諒也
・島田市介護認定審査会委員	天野 由美子
・第9期介護保険事業計画等策定委員	小野 勝彦

【事務局】

・長寿介護課長	安達 義人
・長寿介護課保険給付係長	杉本 健二
・長寿介護課認定指導係長	長江 正和
・長寿介護課主事	対馬 安由佳

1 開会

2 委嘱状の交付

3 島田市長寿介護課長挨拶

4 委員の紹介

5 議事：事業所の新規指定について

（1）ライフサポートはばたき（地域密着型通所介護）の新規指定について

- ・対馬主事から「指定申請書」の内容を説明
- ・事業者の説明

まず川根地区でどのように事業を展開していくか検討した。従来のやり方である朝送迎を行い、レクリエーション・食事提供等も考えたが自分の90歳になる母親が30年ほど前に足と腰を痛めそれを機に家に閉じこもるようになってしまった背景があった。医師の診断では足腰は問題ないと言われてもそれを境に本人が外出するのを億劫になった状況をみた時、こうも簡単に外出することを控えてしまうのかと感じた。それと同時に自分が介護関係に携わりながらも親を支えることができなかったことに申し訳なさを感じた。自分の母親にもデイに行ったらと言ってみたところ、普通のデイではなく、足腰の状態を維持できる施設はないのか、1日つぶれてしまうのは嫌だと言われそれが後押しとなり、半日型の機能訓練型のデイサービスの開設

に至った。

川根地区にこれまで関係性はなかったが、開設にあたり川根地区の状況を見たとき年配の方は多いが、農作業している方も多い印象であった。ただそういった方々が足腰が弱くなってしまうと家に閉じこもりがちになってしまい、人とのつながりが薄れていってしまうのではないかと懸念もしている。昔から「老化は足から」という言葉があるように足腰を鍛えることは介護予防にもつながると感じる。この筋力の維持が今後は必要とされていくのではないかと思う。当施設では下半身を衰えないようにするために、エアロバイクやエスカルゴといった機械を取り入れつつ、民家を利用し少しでも普段の生活に近い状態でかつ運動機能を維持できるような施設にしていきたい。

・質疑応答

要望1： アットホームで雰囲気はよい印象であった。資料3ページにエアロバイクやエスカルゴといった機器の記載はなかったためレクリエーションを行う施設だと思ったが、実際現地確認と話を伺うと機能訓練型の体力維持に重きをおいているとおもった。設備や備品の一覧をみると折り紙等の備品もあるようだが、テーブルがほしいのではないかと。女性が多いと特におしゃべりをしたがる。それが認知症予防に繋がると思うためテーブルの確保は必要ではないかと思う。

要望2： 利用者の転倒による事故も起こりうるのではないかと思うが、現地確認へ行った際に手すりも設置されていなかった。付けるよう検討してほしい。

Q1： 送迎の対象は川根地区を対象としているか。

A1： 川根の家山・身成・抜里を中心に実施する予定。

Q2： 認知症にかかわる基礎的な研修とうについてどのような研修を考えているか。少人数であると研修の開催もなかなか難しいのではないのかと思うが。

A2： 研修については職員が手薄にならないようにバランスを考えながらこれから検討していく。

Q3： 利用定員10人。送迎も常勤の職員が実施すると思うが車種は。

A3： 軽自動車とフリードを利用し、距離も考えながらやっていく。

Q4： 職員の年齢は。

A4： 30代後半から60代前半と幅広い年齢層となっている。60代が2人。残りは35歳から42歳までとなっている。

要望3： 機能訓練が1つのメインになっていると感じる。自分の母親もデイサービスにいつているが、塗り絵や折り紙といった心のケアも必要ではないか。楽しい居場所づくりという面で、ただ休養する場にはならないようにしてほしい。

Q5： 職員の方のお住まいは。

A5： 近隣市町から通われる。

Q6： 川根地区で地域密着型をつくるにあたり、ニーズは。

A6： 地域密着型デイサービスは川根地区になく、集団活動が苦手な方については選択肢が増えたという意味で必要性はある。川根地区の高齢化率は49%。今後はさらに高齢化率も増えていき介護を必要とする方が増えるのではと考えている。後期高齢化率だけでも29.1%市内でも1番高い。

Q7： 川根地区ではケアマネジャーの不足問題が挙げられる。直営で（居宅介護支援事業所が指定を受け要支援者のプラン作成等を行う。）やっている事業所は川根地区で2事業所あるが、ライフサポートはばたきが総合事業通所介護の指定をとった場合はケアマネジャーや高齢者あんしんセンターの職員がプラン作成を行うことになる。川根地区の高齢者あんしんセンターの職員は3人いるが

ものすごい件数を持っている。そういった背景もあり川根地区全体で予防をメインとして活動していることをきいたことがあるが、それでもここで地域密着型のデイサービスを開設しようとしたきっかけは。

A7:親会社である株式会社Life Link Soarでは家山に居宅介護支援事業所を開設し、介護予防支援の指定も併せて受けている。来年1月よりケアマネジャーの数を増やし高齢者あんしんセンターと連携しながら要支援者・予防の方の受入れニーズに対応し存在意義を作っていく。併せて訪問介護も提供し一体的に川根地区でサービスを展開しようとしている。現地で介護職員を確保することは難しい部分もあるが、山間地域で積極的な介護ができるような仕組みを作っていきたい。

Q8:川根の包括支援センターはウエルシアで展開されていると聞いているが、職員の状況は。

A8:かなり手いっぱいでは予防の件数がありすぎて他の業務が回らない状況。需要と供給が合っていない。介護予防支援の指定をとった居宅介護支援事業所も入って支援していかないといけない状況。

(2) 全体を通しての委員からの意見

特になし

(3) 1件の新規申請について

委員長:「ライフサポートはばたき」の新規申請について、承認してよろしいか。

↓

「ライフサポートはばたき」の新規申請について、承認された。

8 その他

(1) 地域密着型サービス施設整備状況について

・長江係長から説明

9 閉会